

シラヒゲウニ種苗生産研究—I

島袋新功

本研究は、昭和56年度「指定調査研究総合助成事業」に詳細を報告したので、その概要をまとめた。

1. 目的及び内容

シラヒゲウニの種苗生産放流による積極的な資源の増大を図るため、その種苗量産技術を確立する目的で、(1)種苗生産時期の検討、(2)ウニ幼生飼育試験、(3)餌料培養試験等を行なったが、生産稚ウニは得られなかった。

2. 成果の要約

(1)シラヒゲウニの10～11月の採卵量は200～1,200万粒/個、採卵した卵は全て成熟卵で、その受精率は100%であった。

(2)ウニ幼生は、270～400 μ の4腕プルテウスまで生長するが、その後の生長はみられず、飼育期間中に全滅し、変態稚ウニは得られなかった。

(3)餌料 *Chaetoceros gracilis* は、初期濃度50～100万細胞/mlで植え継ぎ、4～5日間で400万細胞/ml以上に増殖中のものを投餌に使用した方が良いと考えられた。

3. 今後の課題

本年の飼育ウニ幼生は、飼育期間中に全滅し、稚ウニは得られなかった。方法を総合的に検討し、引き続き試験を行ない、シラヒゲウニの種苗生産技術の確立を図る必要がある。